

一般社団法人 神奈川県建築士会 県庁職域支部だより

目次

- 1 竣工施設等のご紹介
 - (1) 県営上溝団地特定事業、
県営追浜第一団地特定事業（PFI） …1,2
- 2 支部の活動報告
 - (1) 施設見学会 – 旧本多家住宅主屋 – …3
 - (2) 施設見学会 – 開成町役場 – …4
 - (3) 施設見学会 – 三浦市役所新庁舎新築工事 – …5
 - (4) 建築セミナー – 神奈川ゆかりの
モダニズム建築の巨匠 2 – …6
- 3 トピックス
 - (1) ヘリテージ・デザイン実践講座 – 新庁舎 – …7





1 竣工施設のご紹介

(1) 県営上溝団地特定事業、

県営追浜第一団地特定事業（PFI）

清水 愛貴（県 公共住宅課）

県では、県営住宅の建替えについて、従来の県直営方式に加え、PFI事業による手法も試行的に導入しています。現在進行中の2団地のPFI事業について、これまでの事業概要、整備内容及びPFI導入による効果を紹介します。

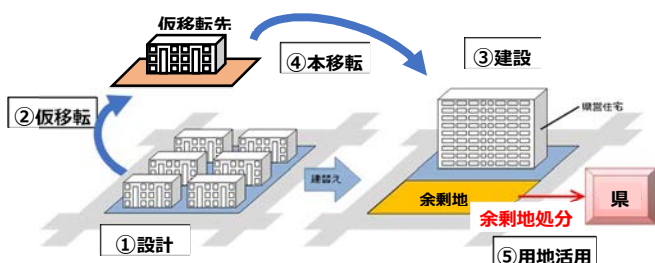
1 背景・目的

県営住宅は、平成31年に策定した「神奈川県県営住宅健康団地推進計画」において、建設後おおむね50年が経過し建替えの時期を迎える住宅が急増することから、老朽化した団地を今後30年間で年間約900戸ずつ建て替える計画としています。

県営住宅の建替えを効率的に進めていくため、これまでの県直営方式に加え、PFI事業を導入することとし、令和4年10月から上溝団地（相模原市中央区）及び追浜第一団地（横須賀市）の2団地で、PFI事業による建替えを試行的に実施しています。また、令和6年3月に改定した「神奈川県県営住宅健康団地推進計画」では、今後のPFI事業などの導入は、現在事業中のPFI事業の効果等を検証していくこととしています。

〈県営住宅PFI（BT）のスキーム〉

①設計 → ②仮移転 → ③建設 → ④本移転 → ⑤用地活用



2 事業概要

(1) 県営上溝団地の全体概要

【所在地】相模原市中央区光が丘3丁目1番ほか

【敷地面積】約4.71ha

【契約期間】令和4年10月～令和10年3月

【契約金額】約14,325百万円

【契約者名】代表企業：大成ユーレック(株)

構成企業：大洋建設(株)、(株)小俣組、(株)市浦ハウジング&プランニング、(株)むげん、(株)美都住販

【事業方式】BTa方式 (Build Transfer assist)

【業務内容（全体）】

① 県営住宅等整備業務（全体）

（除却）既存住宅79棟561戸（設計、建設、監理）

新築住宅：RC造3階建21棟 延床面積28,763㎡

460戸、集会所・コミュニティルーム：RC造 平屋

建 536㎡

② 入居者移転支援業務

③ 用地活用業務（付帯事業）

【整備内容】



県営上溝団地のPFI事業は全3工区に分けて、進めており、1工区（10棟、205戸）が令和7年3月に完成し、同年5月には入居者の本移転が完了しました。



《事業者提案による全体計画のポイント》

本計画では、都市公園「里見公園」を中心とした新しいまちづくり計画を進めており、公園を核としながら、遊歩道などの「ガーデンストリート」をまちの骨格として整備し、団地内や周辺地域との交流を促進する街角広場を配置することで、地域に開かれたコミュニティの場を創出することを目指しています。また、2つの住棟を渡り廊下でつなぐことで、住棟のエントランス空間を確保し、半屋外のピロティや屋外広場を設けることで、人々が自然に出会い、交流を楽しめる回遊動線を設ける計画となっています。





(2) 県営追浜第一団地の概要

【所在地】横須賀市追浜本町 1 - 119 ほか

【敷地面積】約 0.771ha

【契約期間】令和 4 年 10 月～令和 10 年 3 月

【契約金額】約 3, 949 百万円

【契約者名】代表企業：小雀建設㈱

構成企業：㈱金子設計、津久見建設㈱

【事業方式】B T a 方式 (Build Transfer assist)

【業務内容】

① 県営住宅等整備業務

(除却) 既存住宅 6 棟 176 戸

(設計、建設、監理) 新築住宅：RC 造 6 階建 1 棟
延床面積 6,645 m² 120 戸、集会所：RC 造 平屋建
て 延べ面積 122 m²、コミュニティルーム：RC 造
平屋建 延べ面積 51 m²、

② 入居者移転支援業務

③ 用地活用業務 (付帯事業)

【整備内容】



《事業者提案による全体計画のポイント》

建物は壁面後退し、緑地・歩道状空地により周辺環境に配慮した圧迫感のない空間となっており、入居者が自然に交流できるようにコミュニティ広場・集会所を中庭に配置しています。また、計画建物と余剰地（戸建分譲地）の中間に公園を配置し、健康遊具を設けるなど入居者と周辺住民のくつろぎや賑わいの空間となるように計画がされています。住棟は、南北の住棟間に連絡ブリッジを設置することで、相互の行き来を容易にし、コミュニティの形成を図るものとして、連絡ブリッジによりエントランスから住戸へ、各住戸から集会所やごみ置き場へ雨に濡れないバリアフリー経路を確保しています。



3 P F I 事業の効果

上溝団地で 1 工区（10 棟、205 戸）が令和 7 年 3 月に完成し、入居者の本移転が完了したことから、主に上溝団地を対象として、検証を行いました。具体的には、「事業費の削減」、「事業期間の短縮」等について、P F I 事業と県直営方式を比較し、発注準備段階から契約段階、事業実施段階を経て、事業完了段階までの段階ごとに進めていきました。その結果、県営住宅の建替えにおける P F I 事業の活用は、事業費の削減や事業期間の短縮などの観点から、県直営方式と同様に県発注方式の 1 つとして、有効な手段であることが確認できました。

4 終わりに

上溝団地及び追浜第一団地の建替え事業は、いずれも事業期間が長期にわたるため、私が携わることができたのは、事業の一部に限られましたが、完成した上溝団地の 1 工区の街並みからは、従前の団地と比較して、明るく魅力的な団地に再生されている様子を実感することができました。今後、順次、建替えが進んでいきますので、事業完了後の団地全体の姿が楽しみです。また、追浜第一団地の完成も間近になっており、上溝団地とは特色の異なる団地の姿を見ることも楽しみにしています。



2 支部の活動報告

(1) 施設見学会 — 旧本多家住宅主屋 —

杉田 智洋（県 建築安全課）

令和7年度の第1回施設見学会が、7月に逗子市にある「旧本多家住宅主屋」で開催されました。

今回の施設見学会では、(株)久米設計の担当者から、保存・改修工事についてご説明いただいた上で、現場を見学しました。

1 施設見学会の概要

日時：令和7年7月15日(火)14時15分～16時30分

場所：旧本多家住宅主屋（逗子市山の根2-4-17）

参加者数：18名（県及び各団体OB職員）

2 「旧本多家住宅主屋」の概要

構造 木造、地上2階、天然スレート葺

敷地面積 3,120.03 m²

建築面積 217.69 m²

延床面積 357.05 m²

建主 本多庄作 保存改修工事

設計 久米権九郎 設計 (株)久米設計

大工 江守卓 施工 池田建設(株)

薦 出口女吉



【外観】



【ステンドグラス】

3 施設見学会の背景と目的

「旧本多家住宅主屋」は1939年に建てられた邸宅です。長らく空き家となっていたが、(株)久米設計の創始者である久米権九郎氏が設計者であること、久米氏が考案した「久米式耐震木骨構造」を用いて建てられた建築物であることが判明しました。

その文化財的価値を保存し、将来的に活用することを目指し、2021年に(株)久米設計が前所有者の本多氏より継承しました。

「久米式耐震木骨構造」を用いて建てられた作品には、「日光金谷ホテル別館」や「軽井沢万平ホテルアルプス館」が知られており、「旧本多家住宅主屋」は現存が確認できる3件目の作品で、個人邸宅としては唯一の事例です。

建物は2022年に国登録有形文化財（建造物）に登録され、2024年に保存・改修工事が完了しました。

今回はその保存改修工事について、設計者から解説をいただき、現地を見学することにより、県の「邸園文化圏再生構想」や邸園等の保全活用に取り組む団体への理解を深める契機とするものです。

4 参加者からの感想

（参加されたOBの榎原 光生氏から、丁寧な感想をいただきましたので、紹介させていただきます。）

榎原 光生（OB）

高校通学の横須賀線の車窓から、逗子駅付近で山裾の緑の森に、三個の屋根窓（ドーマー）のある珍しい急勾配の屋根が永く印象に残っていましたが、図らずも見学することができ感激しました。

1939年に建てられたそうですが、偶然私の生まれた年と同じ年です。スケルトン状態にし、各部材を精査してかなりの部分を修復していました。あまりの傷み具合が経年劣化によるものか、長く空き家状態であったことによるものかは不明でしたが、同じ年齢の私としてはショックを受けました。

しかし、各職方の丁寧な仕事に感心しました。今でも古典建物の特殊な工法を修復する職方がいるのは、頼もしいことです。

また、著名な設計者の歴史的な建築物を、地域・建築界・自治体等が連携・協力して保存する事例はありますが、設計者自らが取得し・大規模な保存改修工事を行い・活用することは珍しく、久米設計の決断は実に素晴らしいことです。



【小屋裏】



【吹抜けの絵】

私は2018年3月から完全リタイア生活で、現在長年の趣味の油絵を楽しんでいます（自称洋画家）、居間の吹抜けの壁にかかっている絵に大変興味を持ちました。

創業者の実兄は若き洋画家（久米民十郎）でしたから、設計者も当時この絵の扱いには相当気を使ったと想像します。壁と絵の大きさがぴったりで、あらかじめ絵の大きさが分かり壁を造ったのか、或いは完成した壁に合わせた絵を探し求めたのか、偶然の一致はあり得ません。

絵は、井上白陽作・黒田長政像とされているらしいですが、作者の資料が少なくはつきりしません。もし今回の改修工事で絵を取り外していたら、落款や署名、裏書きなどを調査することが可能だったと思います。

国登録有形文化財の指定を受け、設計者・所有者が自ら行う地域の活動拠点としての再出発に期待を持って見守りたいと思います。



(2) 施設見学会 — 開成町役場 —

木戸 麻亜子（県 住宅計画課）

令和7年度の第2回施設見学会を、日本初のZEB認証（Nearly ZEB）によるゼロエネルギー庁舎である「開成町役場」で開催しました。

一級建築士試験における設計製図の試験課題が「庁舎」であることを踏まえ、会員以外の方々にも参加いただき、町の担当者から施設概要をお聞きしてから、議場も含め庁舎内を見学しました。

1 施設見学会の概要

日時：令和7年9月17日（水）13時30分～15時30分

場所：開成町役場（足柄上郡開成町延沢773）

参加者数：18名（県、公社及び各団体OB職員）

2 建物概要

敷地面積 7,699.27 m²、建築面積 2,150.16 m²

延床面積 3,893.19 m²、階数 地上3階建

構造種別 基礎免震構造 RC造、一部鉄骨造

設計監理 株式会社松田平田設計 横浜事務所

施工 大成建設株式会社 横浜支店



【外観】



【内観】

3 特徴

○ ZEB 庁舎

町の豊富な資源である水を空調熱源として利用するなど、高効率な省エネルギー設備を備えることにより、標準的なビルに対して一次エネルギー消費量の55.1%削減を実現するとともに、再生可能エネルギーである太陽光発電でエネルギーを作ることにより、設計段階で79.0%、施工完了時に81.0%の削減を実現し、「Nearly ZEB」の認証を取得しました。

○ 受賞履歴

環境技術の断片的な採用に陥らずに建築意匠・構造・環境の三位をバランス良く統合するための空間デザインを模索し実践したことが評価され、「第64回神奈川県建築コンクール」の最優秀賞を受賞しました。

その他、「ウッドデザイン賞」や「気候変動アクション大賞」を受賞しています。



【施設概要の説明】



【天井輻射空調】

4 参加者からの感想

（県職員）

- ・細かい寸法や各室の実物をみることができ、試験対策をしている中での不明点が晴れました。また、普段見ることができない免震層を見ることができ、とても勉強になりました。
- ・免震装置、ハイサイドライト等が間近に見られたこと、また、実際利用されている職員の方からの声が聴けたのがよかったです。
- ・ZEB仕様の様々な設備を実際見て説明を聞くことができたので、仕組みがよく分かりました。ZEB庁舎を維持管理する上で、管理者や利用者の意識を高くもつ努力が必要だと感じました。
- ・神奈川県でも庁舎のZEB化を推進しており、開成町役場の取組がとても参考になりました。



【免震層】



【議場】

（公社職員）

- ・今年度に1級建築士製図の試験を受験予定で、空間のイメージがよりつきやすくなり、参加をしてとてもよかったと感じます。特に印象に残ったのは、日射熱の抑制のため、あえて北側に開口部を広く設けることで省エネ効果を高めていたことです。
- ・私は今年建築士試験を受ける立場で参加させていだいたのですが、図面を書きながら裏動線や議場周辺の配置などがイメージしづかったため大変勉強になりました。
- ・外からも内部が見えるガラス張りに入りやすさを感じ、内部は分かりやすいサインが施され、特に手続きの場所は各課共用とすることで動線を複数設けず、フレキシブルな使い方をしているのが新鮮でした。
- ・木材を使用することにより、空間に温かみが出て良いと感じました。また、構造や機能がそのまま意匠になっているところも良いと感じました。

（OB職員）

- ・全施設の見学と説明から、機能性の向上と環境負荷の低減にハード（庁舎）とソフト（運用）の両面から、町ならではの特性を活かし積極的に取り組まれていることが良く理解できました。特に印象に残ったのはソフト面で、町民プラザと執務スペースの一体化とイベント時の分離、課長席のフリー化、執務室内の食事禁止、壁のポスター貼り禁止などでした。



2 支部の活動報告

(3) 施設見学会 — 三浦市役所新庁舎新築工事 —

柴森 崇之(県 建築指導課)

県内では、横浜市をはじめ、川崎市や平塚市、藤沢市などで庁舎の建て替えが進み、県庁でも、本庁東庁舎や足柄上、津久井合同庁舎が建て替えられました。

そのような中、設計・施工一括方式(DB方式)で、令和8年11月の完成に向け工事を進めている「三浦市役所新庁舎新築工事」の見学会を開催しました。今回の第3回施設見学会では、まず市や設計事務所の担当の方から工事内容の説明をお聞きし、その後、現場を見学させていただきました。その様子をご報告します。

1 施設見学会の概要

日時：令和7年11月6日(木)14時00分～16時00分

場所：旧県立三崎高校跡地

(三浦市初声町下宮田字長作5番2の一部)

参加者数：13名(県及び各団体OB職員)

2 建物概要

敷地面積 15,827.55 m²

建築面積 3,835.61 m²

延床面積 9,888.99 m²

階数 庁舎棟(3階建て)、付属棟(2階建て)

主要構造 鉄骨造

工事期間 令和7年2月17日から令和8年11月13日

事業者 スタートグループ(代表企業 スタートCAM、構成員 アル・アイ・エー、スタート総合研究所)



【完成外観イメージ】



【完成内観イメージ】

3 施設見学会の背景と目的

新市庁舎は、庁舎棟と付属棟から構成され、庁舎棟には市役所や市議会のほか、県保健福祉事務所などが入居し、付属棟は車庫や書庫などとなっています。

設計の特徴として、窪地である敷地の特性から、庁舎棟の中央にシンボルとなるトップサイドライトのあるアトリウムを計画し、三浦市のシンボルである空と緑を建物内に取り込み、常に感じることでできるデザインとしています。また、工事の特徴として、アトリウム最上部の鉄骨梁の施工において、生産性を高めるため、仮設柱を配置し、支保工を組むことなく鉄骨建方を行う計画とし、2階スラブを後施工とすることなく施工できる計画としています。

外装工事を実施している庁舎棟、付属棟の視察等を通して、今後、県や公社が発注する工事の監督員として、業務を行う際の参考とするものです。

4 参加者からの感想



【工事内容説明】



【アトリウム】

(県職員)

- ・市の中心部の土地の利便性を生かしながら、機能を集約するだけでなく、休日にも市民の憩いの場となるような施設づくりが考えられ、富士山が眺められる屋上広場や船をイメージしたデザインが取り入れられていると聞いて、完成後の施設も実際に見てみたいと思いました。
- ・吹き抜けの多目的スペースや高低差を利用した動線計画、屋上広場など、地域に開いた施設とするための設計上の様々な工夫があり、プロポーザルで事業者を決定することの効果を感じられました。
- ・設計・施工一括発注方式だからこそ出来るアトリウム、それを実現するための鉄骨建て方の工夫や苦労話をお聞きし、見学することができて良かったです。
- ・DB方式の工事ということで、発注者と受注者との関係性(距離感)の話が聞けて参考になりました。
- ・どのような工夫がされているのか、なぜこのようなデザインにしたのか等、発注者・受注者それぞれの話を聞いたことが、大変参考になりました。
- ・隣地での民間施設の誘導提案は、その実現性の審査等に苦労したとのことでしたが、いい建築を作るには、発注者の工夫や努力も非常に重要と感じました。



【付属棟】



【集合写真】

(OB職員)

- ・立地の特性などをしっかりと捉え、市民交流拠点を意図した素晴らしい設計だと思います。中心のアトリウムは明るく広々とし空間が予想され、イベントなどとしての活用が楽しみです。
- ・設計・施工一括発注方式のメリットが、プロポーザル時から現在まで市、設計者、施工者間でしっかりと継続しているように感じられました。
- ・施工において、BIMが鉄骨、配筋、設備などにフル活用されており、有効であることが良く理解できました。



(4) 建築セミナー—神奈川ゆかりのモダニズム建築の巨匠 2—

村島 正章（県建築士会）

昨年の建築セミナーでの講演後、1 年かけて、神奈川県内のモダニズム建築を設計した建築家が手掛けた全国各地の建物を見て歩き、パート 2 として紹介させていただきましたので、その概要をお伝えします。

1 建築セミナーの概要

日時：令和 8 年 1 月 16 日（金）18 時 30 分～20 時 30 分

場所：公社ビル 1 階 Kosha33 シェアラウンジ

（横浜市中区日本大通 33 番地）

参加者数：23 名（県、公社、各団体OB職員ほか）

2 坂倉準三、前川國男の世界

当日前半は、前回紹介しきれなかった巨匠 2 人の作品を見ていただきました。まず、新庁舎の設計者である坂倉準三の東京日仏学院です。大きくせり出した屋根・バルコニーを柱頭が逆円錐状に広がる『シャンピニオン』



【東京日仏学院】



【内部二重螺旋階段】

と称される柱で支えている姿が特徴的で、内部では二重の螺旋階段が必見です。他には芦屋市民センター本館・ルナホールや前川・吉村と三者で設計したまさにモダニズム建築の国際文化会館を紹介しました。

もう一人は、県立図書館・音楽堂の設計者である前



【長岡ロングライフセンター】



【プレイルーム内部】

川國男の長岡ロングライフセンターです。打ち放しコンクリート外壁に縦長上部かまぼこ型のサッシが特徴的で、彼の設計である長岡市北部体育館にも採用されています。内部は前川カラーの赤・青・黄色等が使用されており、写真はプレイルーム格子梁部分の天井面の青色です。他には、埼玉県自然の博物館、東京都美術館を紹介しました。

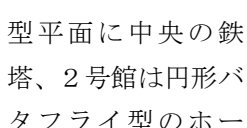
3 山田守、武基雄の世界

今回は、新たに 2 人の建築家の作品を紹介しました。

1 人目は山田守です。分離派出身で通信省の建物や病院など多くを手掛けていますが、県内の代表作といえば東海大学湘南キャンパスです。その中でも、1 号館から 4 号館はそれぞれに個性豊かです。1 号館は Y 字



【東海大学 1 号館】



【2 号館】



【東海大学 3 号館】



【4 号館】

ル施設、3 号館は当時、車が屋上まで登っていた外部のスロープ、4 号館はギリシャ神殿風の外部フレームの事務・図書館棟でそれぞれに一見の価値あります。他に、東京都水道局長沢浄水場や旧社会保険横浜中央病院を紹介しました。

2 人目は、早稲田大学教授を務めた武基雄です。県内では鎌倉にいくつか建物があり、その代表が鎌倉商



【鎌倉商工会議所】



【大崎市民会館】

工会議所です。大きくせり出したワ

ッフルス

ラブの 2 階を、4 本のピン構造の柱が支えている構造が見事です。県外では、東日本大震災でも被害がなかった大崎市民会館です。四隅の三角形の壁がカタナリー曲線を描く RC のシェル屋根を支えている外観は圧巻で、丹下の代々木体育館と双壁をなす建物ではないでしょうか。

4 参加者からの感想

- ・自分の知らない建物が、山ほどあると改めて実感した。「埼玉県自然の博物館」がとても美しかったので、ぜひ見に行きたい。神奈川県内の魅力的な建物をもっと知りたい。
- ・「東京国際会館」に行ってみたいと思った。山田守の「東海大学湘南キャンパス」の話が楽しかった。
- ・写真が綺麗だった。全景が写る写真は、なかなか難しいのにすごい。
- ・各建築家の特徴を分かりやすく説明されていて、よかった。
- ・「ルナホール」は、子供の学校が使う機会があるなどよく知っている建物で、懐かしかった。
- ・親の関係で幼少の頃から「東海大学」の建物を見る機会があり、特徴のある建築だと思っていたが、今回のセミナーでその理由が分かった。
- ・毎回楽しみにしている。以前から、「鎌倉商工会議所」の建物は気になっていたもので、武基雄の話が聞けてよかった。
- ・各建物の説明が楽しめた。次回もお願いしたい。
- ・業務で建設に関わっていても、懐古的な建物や知識に触れる機会が少なく、参考になる。

5 むすび

モダニズム建築の逸品は全国各地に存在しています。皆さんに知っていただくため、今後も継続的に調査を進め、どこかの機会で紹介できればと思っています。

(1) ヘリテージ・デザイン実践講座 — 新庁舎 —

大河戸 正明(県 公共住宅課)

近年、これまでであれば解体されたかも知れない歴史的建築物が、保存活用されるようになってきています。少し前ですが2021、2022年度に歴史的建築物の保存活用のデザインを学ぶ東京理科大学の「ヘリテージ・デザイン実践講座」において、県庁新庁舎を見学してもらいましたので、講座の内容も含め、ご紹介させていただきます。

1 ヘリテージ・デザイン実践講座

近代建築を中心に、解体されてしまっていたかも知れない歴史的建築物が、活用され、使われ続けるようになってきた一方で、改修により、その歴史的価値や文化財的価値を損ねてしまっている事例も見受けられます。2019年には文化財保護法が改正され、文化財の在り方も「保存」から「保存&活用」へ、舵が切られました。歴史的建築物の保存活用が、一層進む環境ができつつあります。

そのような中、歴史的建築物の保存再生や改修にかかる人材育成の講座開設も相次いでおり、東京理科大学では、国立西洋美術館を世界遺産に導いた山名教授、東京駅丸の内駅舎の保存・復原設計チーフの田原幸夫客員教授、元坂倉建築研究所の萬代恭博客員准教授らが、保存活用のデザインのあり方を学ぶ「ヘリテージ・デザイン実践講座」を開講しました。



【2021 フライヤー】



【2022 フライヤー】

2 講座の概要

「ヘリテージ・デザイン実践講座」は、社会人と大学院生、学部4年生がともに受講し、多くの専門家による講義や見学会、歴史的建築物の活用計画の設計課題に取り組む大学院の設計スタジオとして実施されました。

2021年度の第2課題はシルクセンターの再生とされ、講座6日目の10月9日(土)午前中が横浜市都市デザイン室の講義、午後が馬車道からフランス山までの見学会で、そのメインが県庁新庁舎でした。

馬車道⇒旧・横浜銀行(横浜アイランドタワー)⇒県立歴史博物館⇒日本興亜馬車道ビル⇒ザ・タワー横浜北仲⇒日本郵船歴史博物館⇒県庁(新庁舎、本庁舎)⇒シルクセンター⇒山下公園⇒ホテルニューグランド⇒人形の家⇒フランス橋⇒旧フランス領事館公邸遺構

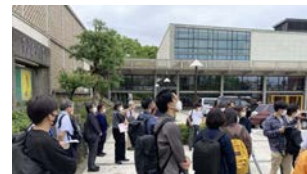
山名教授からは「新庁舎は登録有形文化財の価値がある、すぐに登録できる」、受講者からは、「とても充実した機会だった」との声がありました。なお、2022年度も、県庁と県立図書館・音楽堂を見学しています。



【新庁舎 外観】



【新庁舎 議場天井】



【県立図書館・音楽堂】

3 講義内容の一部

〇建築は物として同じ姿を保ちながら、周囲の社会や環境は相対的に変化していく。〇そうした中で、同じ姿をしている建築は、時間の経過と共に、竣工時には異なる歴史的な価値を新たに生み出している。〇ヘリテージ・デザインとは、建築・都市の双方の視点から、変えるべきもの、残すべきものを選択していく行為であり、それが創造である。〇そして立場を超えた人々の協調によってそれが具現化していく。 など

4 その他

その後、東京理科大学の「ヘリテージ・デザイン実践講座」は、2023年度に金沢工業大学やフランス・中国の大学と合同での合宿形式のワークショップ、「国際建築ワークショップ2023」に発展しています。

県庁舎、特に新庁舎については、今も、横浜市役所のように建て替えるべきだったのではないかと、免震改修され残ってよかったなど、様々な意見や評価を聞きます。今後も、その評価は定まらないのかも知れませんが、モダニズム建築の中で、一定の歴史的価値や文化財的価値が評価されている面はあるのだと思います。

編集後記

土浦亀城邸をご存じですか？DOCOMOMO Japan20選にも選ばれた素晴らしいモダニズム建築です。私は移築前に縁があり見学しましたが、2024年ポーラ青山ビルディングに移築され、一般公開されています。すごい人気で予約が困難なようですが、宜しければ是非！

(編集担当：大河戸 正明、中島 智恵子)